

「北海道の産業界における英語の使用実態とニーズ調査へ向けて」

日時：2005年10月29日（土）午後3時～6時

於：道都大学研究センター

後援：財団法人北海道開発協会

開催趣旨

1990年以降、IT技術の急速な進歩によって、様々な分野の活動がボーダーレス化している。ボーダーレス社会においては、円滑なコミュニケーションを行うために英語の重要性は一層高まっている。しかし、そのニーズの具体的な中身については調査研究がほとんど行われていないのが実情である。そこで、大学英語教育学会内の研究グループであるESP北海道では、財団法人北海道開発協会から助成を得て、北海道の産業界における英語の使用実態とニーズ(必要性)を明らかにするための調査を実施している。現在、北海道工業大学の卒業生を対象とした予備調査を終え、第1次調査として、道内に住み、仕事をしている人を対象としたインターネット・アンケート調査を行った。有効回答数1,085名のアンケート結果から、実務的な英語を日常的に使うのは1割、必要性を感じている人は3割に留まることが判明した。本日は、北海学園大学の浦野研助教授を講師としてお招きして、ニーズ分析の方法論についてご講演していただくとともに、これまでESP北海道が実施した調査の成果を報告して、本プロジェクトが示唆するものについて討論を行いたい。そして、討論した結果を、第2次調査として来月中旬に実施予定の、道内の企業調査に役立てたい。

ESPとは

English for Specific Purposes（特定の目的のための英語：専門英語）とは、実社会の様々なシーンでコミュニケーションを目的として使用されている英語のことである。中東における石油採掘に従事する多国籍企業、欧米への移民が在籍する学校など、ビジネス上、教育上、コミュニケーションの手段として英語が必要なところで、ESPの教育と研究が発達した。日本では、1990年代に入り、工学や薬学、医学、法学など、国際的に情報が日々飛び交う分野で、急速に広まり、高い関心を集めている。

ESP教育と研究の特徴の一つは、英語教育プログラムの開発に際して、ニーズ分析を行うことである。英語が使われている状況を調査し、使用されている言語の特徴を研究して、使用者とコミュニティ(使用者が属する専門職集団)のニーズを明確にする。そして、これらの調査と研究から、コミュニケーション上の到達目標を設定し、プログラムをデザインする。

ESP 北海道とは

大学教育英語学会 (JACET) 北海道支部に設置された研究会である。2003 年 2 月に JACET 本部に設置されている ESP 本部の北海道グループとして活動を開始した。2004 年 5 月に ESP 北海道として独立し、会員 8 名 (教員 7 名、大学院生 1 名) で活動を開始。2005 年度は、道内の国立大、私立大、高専の教員 8 名が会員として研究活動を行っている。ホームページ URL : <http://www.esp-hokkaido.org>。

ESP 北海道 2005 年度研究プロジェクトとは

北海道内の大学の特徴は、地元就職率が高い点と、単科系の大学が多い点にあり、大学の教育内容が社会の活動に直結しやすい状況に置かれていることである。ボーダーレス化が進む社会において、産業界で活躍する学生を輩出するためには、英語教育にも創意工夫が求められる。ESP 北海道では、教育プログラムを開発するにあたり、地域の英語に対するニーズを調査することになった。ニーズ分析では、使用者とコミュニティのニーズを考慮することから、本調査においては、使用者である社会人のニーズと使用者が属する産業界のニーズの両方についてアンケート調査を実施することになった。大規模調査であるために、調査に先立ち、北海道工業大学の卒業生を対象とした予備調査を実施して、調査方法について検討を重ねた。

インターネット調査では、調査会社に登録された道内モニター約 2,300 名に調査依頼し、ウェブ上でアンケートに回答してもらった。最終的に 1,085 名からデータを得ることができたが、私生活上で使う英語を除いて、仕事上で使う英語に限定すると、日常的に使用する人は 1 割、必要性を感じている人は 3 割であった (資料 1 参照)。専門性が高い技術職、医療従事者など、特定の職種において、英語を使用する頻度も必要性も非常に高いことが分かった (資料 2 参照)。また、職場で使用する英語の技能としては「読む」が最も高く、「英語資格試験」は 8 割以上の職場で求められていないという実態が浮き彫りになった (資料 3 参照)。

現在は、調査結果の分析と、産業界の調査に向けた準備を行っている。産業界の調査にあたっては、道内各地の商工会議所に調査協力を依頼し、道内企業約 2,000 社へのアンケート送付を予定している。企業の皆様には是非ご協力いただきたい。

ESP 北海道 連絡先

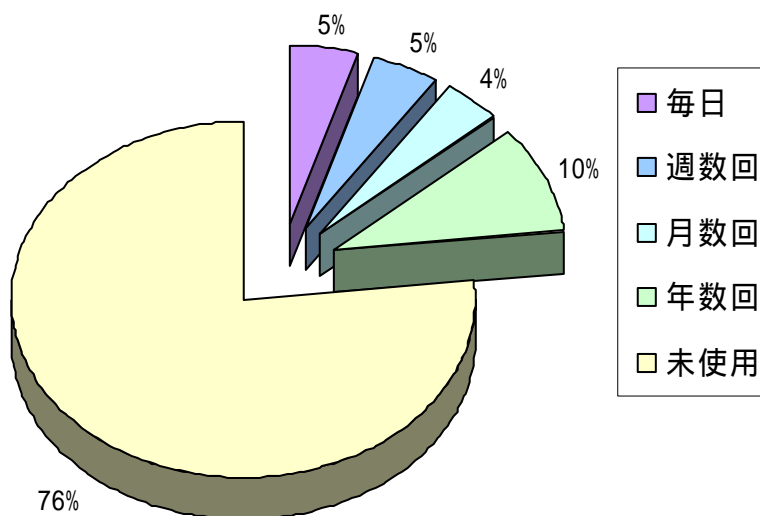
ESP 北海道事務局 道都大学 坂部俊行研究室内
〒061 - 1196 北海道北広島市中の沢 149 番地
TEL : 011 - 372 - 8146 (直通) FAX : 011 - 376 - 9706
E-mail : esp-hokkaido@nifty.com

(代 表) 内藤 永 旭川医科大学助教授
(副 代 表) 吉田 翠 天使大学教授
(事務局長) 坂部 俊行 道都大学専任講師

E S P北海道 2005 年度第 1 次調査
 「道内における社会人の英語の使用と必要性に関する調査」

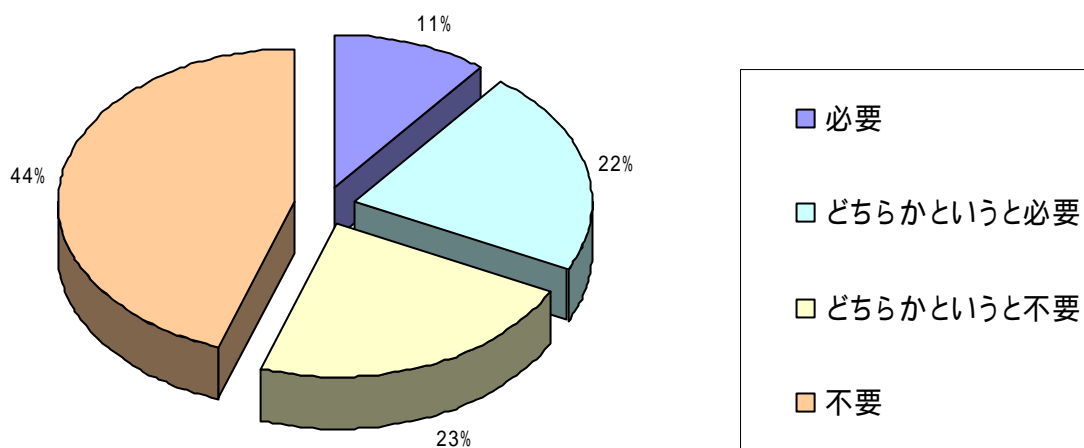
(資料1)

職場で専門・実務英語をどの程度使うか(使用頻度)



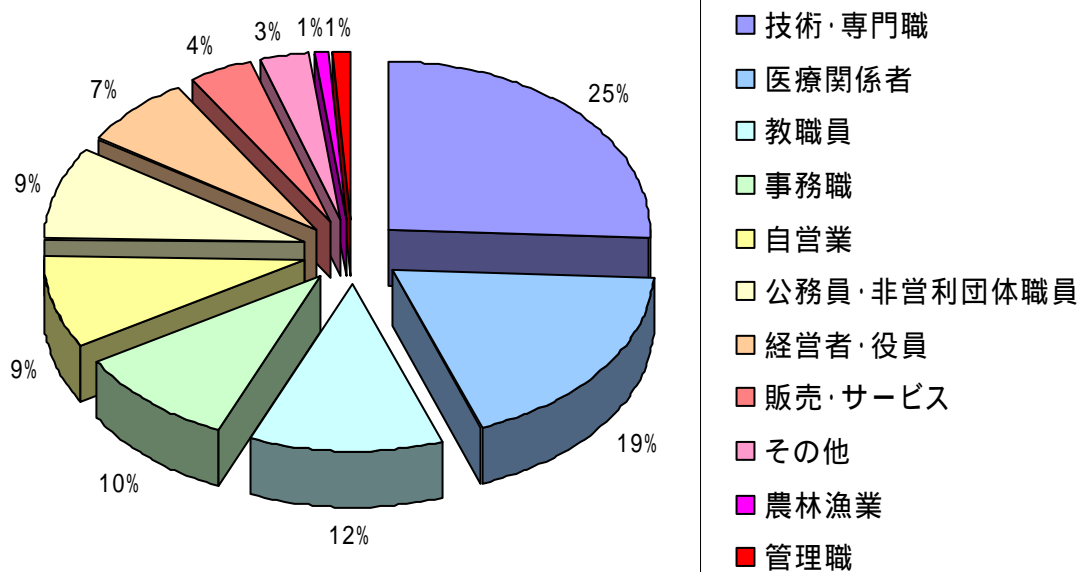
回答者数は 1,085 名。
 日常的(「毎日」+「週数回」)使う人が 10%。
 たまに(「月数回」+「年数回」)使う人が 14%。
 4人に3人が使っていないのが現状。

職場で専門・実務英語を必要と感じるか(必要性)



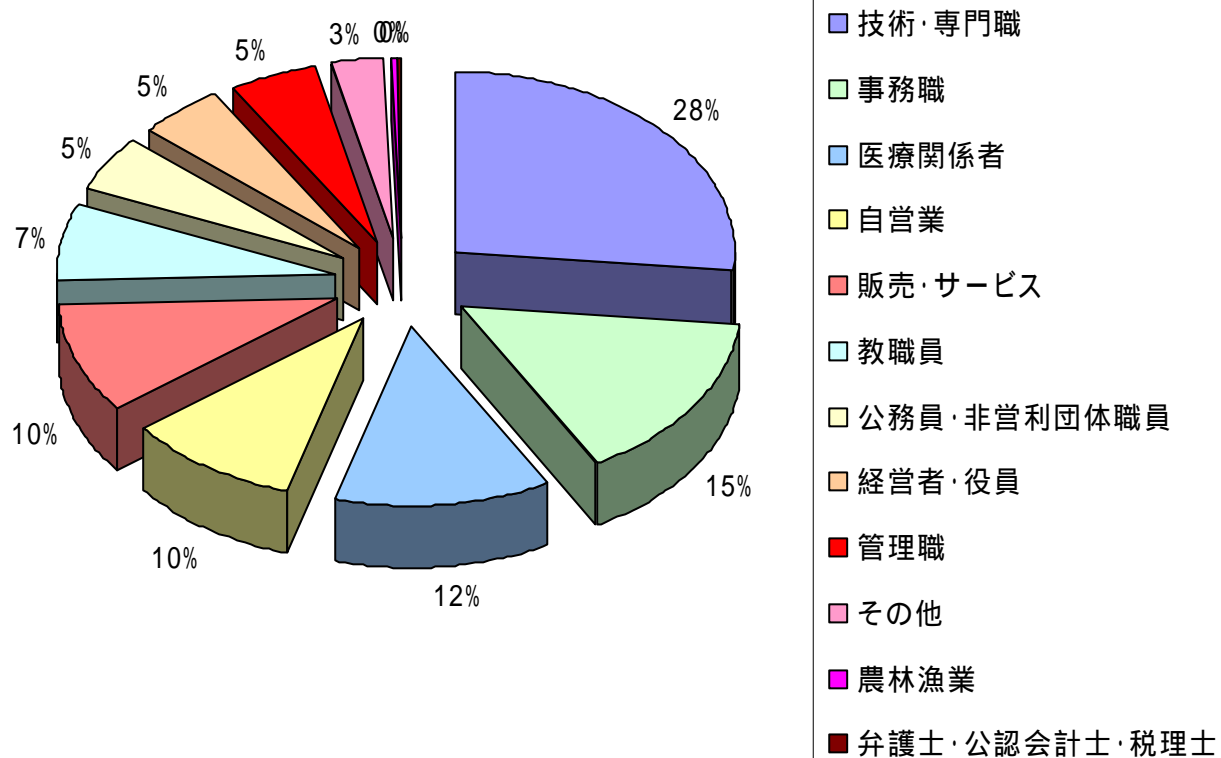
回答者数は 1,085 名。
 「必要」と「どちらかという必要」は合わせて 33%。
 「不要」と「どちらかという不要」は合わせて 67%。
 現在英語を使用していなくても、必要としている人が潜在的にいる。

職場で日常的に専門・実務英語を使用している人の職種



職場で専門、実務英語を日常的に使用している人は、101名。
技術・専門職、医療関係者、教職員で、56%を占める。
専門性が高く、技術が必要とされる職種で英語が使われている。

職場で専門・実務英語を必要と感じている人の職種



職場で英語を必要としている人は、324名。
使用頻度が高い技術・専門職、医療関係者は、必要性に対する意識も高い。
必要と感じている事務職、自営業者、販売・サービスの割合が、実際に使用している割合よりも大きい。

